

平成25年度 自 己 評 価 表

鳥取県立鳥取商業高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	保護者・地域と連携し、望ましい職業観・勤労観を身につけ、知・徳・体のバランスのとれた、次代を担う若者を育てる	今年度の 重点目標	①鳥商生としての自覚と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動できる力をつける ②望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現を目指し努力する ③健康に留意し、学力向上と部活動に励む ④ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける
-------------------	--	--------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 (9)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動できる力をつける	(自覚と誇り) ・鳥商に入学して良かったと思っている。 ・校内外ともに、明るい笑顔と気持ちの良い挨拶ができ、正しい身だしなみが保たれている。	・鳥商に入学して良かったと思っている生徒が85％。 ・校内外ともに、明るい笑顔と気持ちの良い挨拶ができ、正しい身だしなみが保たれている。 ・気持ちの良い笑顔や自発的な挨拶をより一層定着させたい。 ・ほとんどの生徒が正しい身だしなみを定着させている。	・鳥商に入学して良かったと思っている生徒が90％いる。 ・校内外ともに、明るい笑顔と気持ちの良い挨拶ができ、正しい身だしなみが保たれている。 ・校外においても明るい笑顔と気持ちの良い挨拶ができ、身だしなみもよく、地域からの信頼や評価も高い。 ・遅刻、欠席がなく目的意識を持って意欲的に登校している。無遅刻の生徒が80％以上(遅刻1人当たり0.5回以下)となる。	・職員、生徒会生徒、部活動が連携した挨拶運動を継続する。 ・授業の始まり終わりの挨拶を大切にし、より一層けじめのある授業展開を図る。 ・生徒にとって見守られ感と安心感を感じる指導に努める。	・1年生対象にビジネス基礎研修を実施、本校で学ぶ意義、目的、鳥商生としての自覚や誇りに対する意識を醸成させた。 ・朝の挨拶運動を生徒会執行部生徒、部活動生徒とともに継続し、挨拶やマナーに対する意識の向上が図られている。 ・集会等では5分前行動を取れるようになったが、大きな声で校歌を歌えない生徒がいる。 ・遅刻生徒は昨年に比べ、学年の工夫した指導により大幅に減少している。 ・鳥商祭を契機に集団活動に対する参加意識が高まった。	B	・1年生のビジネス体験実習を通して、さらに本校で学ぶ意義、目的、鳥商生としての自覚や誇りに対する意識を醸成させる。 ・日常での挨拶やマナー、授業の開始と終了におけるけじめなど、より意識を高めて指導する。 ・集会等で今後も5分前行動の指導を続け、校歌が誇りを持って歌えるよう指導する。 ・遅刻者に生活の見直し等を考えさせ、学年の工夫した遅刻指導を継続する。 ・鳥商デパートをとおして集団活動に対する参加意識や貢献意欲を高めたい。
	(自ら考え、判断、行動) ・規範意識、人権意識が高く、周囲や集団に対して貢献することができる。	・無遅刻生徒が昨年度66％であった。(遅刻1人当たり1.5回) ・生徒会活動や委員会活動が活発化してきている。	・学校行事や全校集会で規律ある行動が取れ、校歌を大きな声で歌うことができる。 ・生徒会活動や委員会活動が活発であり、生徒個々の集団活動に対する参加意識や貢献意欲が高い。	・学校行事や全校集会等の意味づけを自覚し、職員と生徒が一体となって行動、実施する。 ・遅刻生徒に対して生活の見直しについて考えさせる。		B	
2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現を目指し努力する	(職業観、勤労観) ・体験的活動による実践力や応用力の育成が効果的に行われている。	・キャリア教育に関する行事が数多く、体験的活動が積極的に行われている。 ・各事業の実施を自己表現力育成プログラムとして体系化に取り組んでいる。	・社会生活を視野に入れた進路選択が行われており、様々な体験活動への参加や模擬試験、実務検定試験等への取り組みが活発である。 ・様々な職業資格の取得に努め、1級取得率90％、1級3種目取得率40％以上が達成されている。	・進路指導部、商業科、自己表現力育成委員会が連携し、一体感、連続性のある自己表現力育成プログラムとして完成させる。 ・鳥商デパートを鳥商教育の集大成として継続、発展させていく。	・自己表現学習プログラムにより、3年生は人前で話せるようになった。また、県外教員との授業交流で、1年生のグループ学習においても活発に意見を述べていると驚かれていた。 ・夏季休業中に全学年で勉強会宿・セミナー等に取組み、学習意欲の向上を図った。また、検定対策講習会、検定週間、進学模試、補習、3年月例テスト、小論文指導を実施した。	B	・ビジネス体験実習、研修旅行、強歩、鳥商デパート等の体験をとおしてキャリア教育に関する意識を高めていきたい。 ・検定前の検定週間を実施し、学習意欲を高め合格率を上げる。 ・SHR、学年集会でのスピーチを継続する。
	(進路実現) ・キャリア教育によって将来の社会生活と職業に結び付く進路選択が行われている。 ・進路に関する模擬試験、実務検定試験等に積極的に取り組んでいる。	・全商検定1級の複数資格合格に向けて取り組む姿勢が定着している。(昨年度3年生1級合格87％、3種目以上1級合格37％)	・就職内定100％が継続して達成されている。 ・キャリア教育にもとづく目的意識が明確な進路選択が行われており、合格率100％となっている。 ・1年生より進学希望の生徒が積極的に補習や進学模試を受験している。	・進路補習と検定補習の連携を図る。 ・商業高校生としての専門性と、学びを活かそうとする態度を更に伸ばす。 ・普通科科目の実力養成に努め、進路実現の幅と可能性を更に広げるため、3年生で月例テストを実施する。		A	
3. 健康に留意し、学力向上と部活動に励む	(健康に留意) ・食事・睡眠・運動の大切さをよく理解し、規則正しい生活が定着している。	・基本的生活習慣の確立されている生徒が65％であり、一部夜更かしなどの不摂生によって体調不良を訴える生徒がいる。	・健康や安全に対する意識が高く、食事・睡眠・運動を大切にした規則正しい生活習慣のもとに学校生活を送ることができている生徒が75％となっている。	・食事・睡眠・運動の大切さを啓発する講演会、研修会を継続して実施する。 ・食事や睡眠に対する保護者への啓発を行い、家庭との連携を深める。	・健康教育推進事業により講師を招き、運動の大切さについて講演を聞き、健康意識を高めた。 ・定期的に保健だよりを発行し、健康管理に関する啓発を行っている。	B	・PTA広報誌で生活リズム確立について保護者への啓発を行う。
	(学力向上) ・規律と意欲のある学習態度が保たれている。 ・自宅学習が毎日継続的に積み重ねられている。	・学習に対する意欲・態度は概ね良好だが、受動的な場面が多く、家庭学習の定着も乏しい。 ・部活動への関心は高く、多くの生徒が加入し活発に活動されているが、全員の加入には至っていない。	・毎日の自宅学習が定着している。 ・専門科目と普通科目のバランスを大切にし、継続した学習の積み重ねが行われている。 ・部活動に100％加入し、学習と部活動の両立に努力している。	・授業力向上研修を生かし、生徒にとって学ぶ意欲を向上させる授業改善を進める。 ・予習、復習と検定取得へ向けた継続した自宅学習を計画的に取り組んでいる(1日60分以上)。	・自宅学習調査では学習時間が減少しつつある(1年)。調査を継続することにより学習不足に気づく生徒や担任とのコミュニケーションの材料となっている(2年)。定期調査前の学習時間は、以前と比較し増え、さらに放課後残って学習している生徒が増加した(3年)。 ・自主的な0限体育参加者が約90名となり、部活動の競技力向上やスポーツテスト結果につながっている。	C	・継続して各学年で自宅学習調査を行い、面談等で指導する。
	(部活動) ・すべての生徒が部活動に加入し、各部で優勝を目指した努力が積み重ねられている。	・昨年度、全国大会へ運動部4、文化部1、商業系4の計9大会に出場。	・各部で優勝を目指した努力が積み重ねられ、知、徳、体のバランスのとれた人格成長の場となっている。 ・各部が切磋琢磨する中で、中国大会以上へ出場する部が10以上、全国大会へ出場する部が6以上となっている。	・部活動が、協調性や社会性、忍耐力を含めた、自らの人格を成長させる場であることをより一層自覚させる。	・主体的な0限体育参加者が約90名となり、部活動の競技力向上やスポーツテスト結果につながっている。 ・ジグソー法、ケーススタディなどの手法を使って生徒の思考力・判断力・表現力の育成を図り学力向上につなげている。	A	・1・2年生の部活動に未加入生へ、自らの人格を成長させる場であることを自覚させ入部を働きかける。
4. ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける	(社会人に必要な力) ・挨拶やマナー、正しい言葉づかいと身だしなみが身についている。	・商業高校生としての自覚に基づく挨拶や身だしなみは概ね良いが、知識、技術を生かそうとする応用力が未熟である。	・専門高校で学ぶ生徒としての誇りを持ち、挨拶やマナー、正しい身だしなみが身についている。 ・社会生活における規範意識、人権意識に基づいた行動をとることができる。	・学校評議員、学校関係者評価委員、ネットワーク会議などによる外部有識者からの意見、提言を積極的に反映していく。	・ネットワーク会議により、企業が求める即戦力とビジネス実践力について外部有識者からの意見、提言をいただき積極的に反映していく。	B	・ネットワーク会議を10月に開催し、産学各分野から提言を求める。 ・鳥商教育の集大成に相応しい鳥商デパートの開催に向け、生徒、職員、保護者が連携し、全力で取り組む。
	(ビジネス実践力) ・知識、技術を活かす応用力と実践力が身に付いている。	・おだやかで、基本的なコミュニケーションは良好であるが、社会人としての表現力や知識、教養の吸収には物足りなさがある。 ・図書貸出冊数が約4,950冊、1人あたり8.6冊であった。	・知識、技術を生かす行動力や応用力がビジネス実践力として身につけている。 ・知識や教養を広げることに意義を見出し、図書館を利用する生徒が多く、年間貸出冊数が6,000冊以上、1人あたり10冊以上である。	・鳥商教育の集大成に相応しい第20回鳥商デパートを実施する。 ・ケーススタディ教育の研修と活用を図り、生徒の応用力、実践力育成につなげる。 ・鳥商手帳を活用し、自己管理能力を高める。	・本校教育の集大成に相応しい第20回鳥商デパートを実施するため、「デパートゆにっと」(長野市)に参加する等、準備を進めている。 ・入社試験前の応募前説明会で鳥商手帳を使い好印象をもたれた。 ・9月全商英語検定2・3級の合格者は増加している。英語村キャンプ、スピーチコンテスト中国大会に参加。 ・とっとりリーダー研修に7名参加、今後の生徒会活動に期待している。	B	
	(グローバル人材・語学力) ・他者の意見に対する寛容の精神と、自分で考え伝える力を兼ね備えた自己表現力が身に付いている。 ・英語活用力が向上している。	・全商英検の合格者1級4名2級22名3級157名、鳥取環境大学の英語村に参加した生徒がいる。	・全商英語検定の合格率が前年度より向上している。	・1年生の英語授業を習熟度とし、ESS部の活動を活性化する。		C	・ジグソー法、ケーススタディを活用した文科省の指定研究を実施し、生徒の応用力、実践力育成につなげる。 ・12月全商英語検定を積極的に受験させる。全商スピーチコンテストへの参加。 ・図書館だよりを発行し、利用者者の増加を図る。

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し
[100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]